



予防接種



- ＜接種場所＞ あつまクリニック(要予約)
- ＜日 時＞ ◆未就学児(予防接種専用時間)・・・毎週水曜日14:00～15:00
◆小学生～19歳・・・毎週月・金曜日9:00～12:00/14:00～17:00、毎週水曜日9:00～12:00/15:00～17:00
- ＜持 ち 物＞ ①母子手帳、②QRコードシール、③予診票(必ず事前に記入してください)

定期予防接種 * 下記の期間で無料で接種することができます

【不】不活化ワクチン:ウイルス等の感染能力を失わせた(不活化した)ものを元に作られたワクチン。生ワクチンよりも生み出される免疫が弱いので追加の接種が必要。

【注射生】生ワクチン(注射):ウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを元に作られたワクチン。毒性を弱めたウイルス等が体内で増えて免疫を高めるため、接種回数は少なくても済む。十分な免疫ができるまでに約1ヵ月必要。

【経口生】経口で接種するタイプの生ワクチン

種類	対象者(接種できる年齢)	接種開始年齢	接種回数と間隔 (※接種開始年齢によって回数が異なります)		備考
※ 【不】 Hib(ヒブ)	生後2ヵ月 ～60ヵ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2ヵ月～7ヵ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は1歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後7ヵ月以上あけて)	
		生後7ヵ月～1歳未満	初回	2回(27日以上あけて)	※初回2回目は1歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後7ヵ月以上あけて)	
【不】 小児用 肺炎球菌	生後2ヵ月 ～60ヵ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2ヵ月～7ヵ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は2歳まで(追加接種は可)
		生後7ヵ月～1歳未満	追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	※初回2回目が1歳を超えた場合は3回目の接種は行わない(追加接種は可)
			初回	2回(27日以上あけて)	
		1歳～2歳未満	追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	※初回2回目は2歳まで(追加接種は可)
		2歳～5歳未満	2回(60日以上あけて)		

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔		備考
【経口生】 ロタウイルス (ロタリックス)	生後6週 ～24週未満	1回目は必ず、生後2ヵ月 ～生後14週6日までに 接種してください!	2回(27日以上あけて)		
【不】 B型肝炎	生後2ヵ月 ～1歳未満	生後2ヵ月～9ヵ月未満	初回	2回(27日以上あけて)	
			追加	1回(1回目の接種から139日以上あけて)	
【不】 五種混合 ジフテリア・破傷風 百日ぜき・ポリオ・Hib	生後2ヵ月 ～90ヵ月(7歳6ヵ月)未満	生後2ヵ月～7ヵ月未満	1期初回	3回(20～56日あけて)	R6.4.1以降は四種混合とHibワクチン が一体となった五種混合ワクチンでの 接種となります。
		1期初回(3回目)終了後 6～18ヵ月後	1期追加	1回(1期初回(3回目)終了後6～18ヵ月あけて)	
【注射生】 BCG	1歳未満	生後5～8ヵ月未満	1回		
【注射生】 麻疹・風疹 (MR)	1期	1歳～2歳未満	1期	1回	
	2期	5歳以上7歳未満で 翌年度小学校に就学する児	2期	1回	
【注射生】 水痘 (みずぼうそう)	1歳～3歳未満 ※既に罹患した場合は対象外	1回目:1歳～1歳3ヵ月まで 2回目:1回目から6～12ヵ月後	2回(6～12ヵ月(最低3ヵ月以上)あけて)		
【不】 日本脳炎	1期	生後6ヵ月 ～90ヵ月(7歳6ヵ月)未満	1期初回	2回(6～28日あけて)	
	2期	3歳～4歳未満	1期追加	1回(1期初回終了後、約1年(最低6ヵ月)あけて)	
		4歳～5歳未満	2期	1回	
【不】 二種混合 ジフテリア・破傷風	11歳～13歳未満	11歳～12歳未満 (小学6年生)	1回		本ワクチンは、四種混合または五種混合 の第二期となります。
【不】 ヒトパピローマ ウイルス感染症 (9価シルガード)	小学6年生 ～高校1年生の女子	中学1年生	2回(6ヵ月(最低5ヵ月)以上あけて) ※1回目接種が15歳を超えた場合は3回接種(2ヵ月以上 あけて2回接種、その後1回目から6ヵ月以上あけて 1回接種)		R7年度でサーバリックス、ガーダシル の接種は終了し、シルガードのみとなりました。

※令和6年4月1日以降に接種を開始するお子さんは、五種混合ワクチンとしての接種となります。
(令和6年3月31日までにヒブワクチンの接種を既に開始している方は、同様のヒブ単独ワクチンで接種を終えてください)

任意予防接種 * 町助成対象(無料):1歳～3歳未満で1回目の接種のみ

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔	備考
【注射生】 おたふくかぜ	1歳以上 ※既に罹患した場合は対象外	1歳以上 ※2回接種する場合の2回目は、小 学校就学前の1年間	1回 ※日本小児学会では2回接種が推奨されています	※2回目接種の場合、1回目であつても年齢が町助成対象外の場合は、全額自己負担となります。

* 本来、全額自己負担の予防接種ですが、厚真町独自助成により無料で接種することができます

ワクチンの接種間隔について * 以下の2点を必ず確認しましょう

- ①次に別の種類のワクチンを打つ場合・・・注射生ワクチンどうしは27日以上あける。それ以外は原則接種間隔の規定なし。
- ②次に同じ種類のワクチンを打つ場合・・・上記の表のとおりの間隔をあける

ワクチンで予防できる子どもの病気

対象の方には、個別にご説明・ご案内しています



1. ヒブ(インフルエンザ菌 b 型)感染症【ヒブワクチン又は五種混合ワクチン※で予防】

インフルエンザ菌 b 型(※季節性インフルエンザとは別のもの)による感染症で、5 歳までにかかることが多く、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎等を起こします。重い後遺症を残したり、死亡する例もあります。

2. 小児肺炎球菌感染症【小児肺炎球菌ワクチンで予防】

肺炎球菌による感染症で、肺炎や中耳炎、髄膜炎などの重い合併症を起こすことがあります。髄膜炎は難聴、精神発達遅滞、四肢の麻痺、てんかんなどの後遺症を残すこともあり、死亡する例もあります。低年齢ほど発症しやすく、特に 0 歳児でのリスクが高いとされています。

3. ロタウイルス感染症【ロタウイルスワクチン(経口)で予防】

ロタウイルスによって下痢や嘔吐の胃腸炎症状が出る、感染力の強い病気です。胃腸炎の中でも重症になりやすく、脱水症やけいれん、脳炎、重い腎障害などの合併症を起こすことがあります。

4. B型肝炎【B型肝炎ワクチンで予防】

主に血液を介して感染し、黄疸や全身のだるさ、食欲不振、吐き気、嘔吐などの症状が出る病気です。多くの場合 3 ヶ月以内に治りますが、乳幼児期に感染すると、ウイルスが排除されずキャリア(体内にウイルスを持っている)状態になる可能性が高く、慢性肝炎などを発症することがあります。

5. ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ【五種混合※・二種混合ワクチンで予防】

【ジフテリア】ジフテリア菌による感染症。38 度以上の高熱、のどの痛み、犬の遠吠えのような咳が特徴です。重症化すると、呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし、死亡することもあります。

【百日せき】百日せき菌による感染症。長く続く咳、笛のような音を伴う呼吸困難、チアノーゼなどの症状がみられます。肺炎や脳炎を合併することもあり、乳児では死亡することもあります。

【破傷風】土の中にいる破傷風菌が傷口から侵入し、菌の毒素でけいれんを起こします。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症化すると呼吸困難になることもあります。

【ポリオ】小児マヒとも呼ばれる病気。無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、まれに、解熱後に片側の手足に弛緩性マヒを生じ、後遺症を残すことがあります。

6. 結核【BCGワクチンで予防】

結核菌の感染で起こる病気。日本では年間約 12,000 人の方が結核にかかり、約 2,000 人が亡くなっています。高齢の方が多くいますが、産まれてすぐでもかかる可能性があり、抵抗力の弱い乳児がかかると、結核性髄膜炎や粟粒結核など重い結核になることがあります。

7. 麻しん(はしか)・風しん(三日ばしか)【麻しん風しん混合ワクチンで予防】

【麻しん】麻しんウイルスによる感染症。熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。子どもがかかると肺炎や脳炎を合併したり、死亡する例もあります。

【風しん】風しんウイルスによる感染症。熱、赤い発疹、首のリンパ節の腫れの 3 症状がみられます。通常 3 日程度で治りますが、重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病を起こすこともあります。

8. 水痘(水ぼうそう)【水痘ワクチンで予防】

水痘・帯状疱疹ウイルスによって感染し、強いかゆみのある発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

9. 日本脳炎【日本脳炎ワクチンで予防】

感染したブタから蚊を介して感染し、急性脳炎を引き起こします。突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどが起こり、一度かかると治療法がなく、死亡や重い後遺症を残す危険性があります。

10. RSウイルス感染症【RSウイルス母子免疫ワクチンで予防】※妊娠中に接種するワクチン

RS ウイルスによる感染症で、2 歳までにほぼ全ての子どもが感染するといわれています。発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、約 3 割で咳が悪化し重症化することがあります。

妊娠 28~36 週に接種することで、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができます。

※R6 年 4 月以降に接種を開始した方は、五種混合ワクチン(ヒブ、ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ)で接種します。